

令和3年度

# 授業改善推進プラン【小学校】

- ①令和3年度北区立小学校学力向上を図るための全体計画(様式1)
- ②令和3年度第2～6学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析(様式2)
- ③指導方法の課題分析と具体的な授業改善案 4教科(様式3)

東京都北区立豊川小学校

[様式1]

令和3年度 北区立小学校学力向上を図るための全体計画

東京都北区立豊川小学校

令和3年度「北区基礎・基本の定着度調査」を受けての各教科の分析

国語	第4・5学年の同一集団の経年比較の結果を見ると、平均正答率が上昇している。第2・4・5学年は、全国の平均正答率を上回っている。毎年の基礎的な学力向上に向けての取組が積み上げられ、少しずつ成果を上げてきている。一方で、第3・6学年の平均正答率が全国の平均正答率を下回っている。
社会	第5・6学年共に、平均正答率は全国を下回っている。第5学年では、「先人の働き」の内容についての問題の平均正答率が大きく下回っている。第6学年は、「基礎」「活用」共に、目標値を大きく下回っている。第6学年「日本の食料生産」「情報を生かした産業」の領域に関する問題の平均正答率が大幅に下回っている。基礎的な知識が身に付いていないために活用する力も身に付いていない。
算数	第4・5学年は、全国の平均正答率を上回っている。基礎的な知識が身に付いており、それに伴って活用する力も伸びてきている。第2・3・6学年は全国の平均正答率を下回っている。第6学年は全ての領域、全ての観点で全国の平均正答率を下回っている。基礎的な知識が身に付いていないために、活用する力も身に付いていない。
理科	第4～6学年は、全国の平均正答率を下回っている。第5・6学年共に基礎的な知識の平均正答率が全国を下回っていることに加え、活用する能力についても平均正答率を下回っている。基礎的な知識が身に付いていないために活用する力も身に付いていない。

本校の教育目標

- たかましい子
- あかるい子
- かんがえる子
- やさしい子

学力向上に関わる経営方針

- ・校内研究の教科である総合的な学習の時間・生活科の指導の充実を目指し、児童が主体的に学習に取り組む基盤を培うと共に、各教科を横断的に学ぶことができるようにする。
- ・授業改善プランを効果的に活用し、基礎基本の力を習得させる。
- ・自分の考えを100字で書き表す学習習慣を付ける。
- ・情報活用能力の育成を継続し、学校図書館やNIEを活用した豊かな思考力・判断力・表現力を養う。

本校が児童に育成したい力

- ・各教科等で育成すべき資質・能力を育むための基盤となる基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得できる力
- ・各教科等の特性に応じた見方・考え方を働かせて、自分の思いや考え方をもち、進んで表現する力

校内における学力向上推進体制

- ・北区基礎・基本の調査や都学力調査・全国学力調査の結果分析を基に、学力向上対策委員会で教科ごとの授業改善方法、指導の重点方針を決定する。
- ・国語は、辞典の使用及び新出漢字の指導法やドリルを用いた習熟方法、視写、短作文の指導を繰り返し行うことにより基礎力を付ける。第6学年はさらに漢字を読み書き力を付けていく。また、「豊川小学校おすすめの本50冊」を低・中・高学年に分け決め、年間を通して多様な読書に取り組めるようにする。社会は、世界地図や日本地図・年表を掲示して学年別に習得させる知識を日常確認できるようにする。また、毎週金曜日の朝学習の時間にNIEタイムを設け、時事問題にも関心をもてるようにする。算数は校内の教員に東京ベーシックドリルの活用及び教具の工夫を図り、の定着を図る。理科は既習事項を常掲して、理科の用語の定着を図っている。若手教員は、授業を公開して改善に努める。
- ・学校図書館指導員を中心に学校図書館の整備・充実を図り、各教科で生かせるように計画した。3年生以上は「比べて読もう新聞コンクール」に全員参加する。
- ・(月)(火)(金)の昼学習の時間にぐんぐんタイムを設定し、第3～6学年に対して学力フォローアップ教室など授業時間外の個別指導を学校全体で支援し、基礎的・基本的な学力の向上を図る。

本校の授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての児童が主体的に学ぶ楽しさを実感するために、体験的な活動を多く取り入れ、問題解決的な学習を展開する授業を行う。</li> <li>・自分の考えを100字に表す学習習慣を付ける。</li> <li>・学習のめあてを提示し、授業展開の見通しをもたせる。</li> <li>・ICTを授業に活用し、視覚的にも分かりやすい授業を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝学習の火曜に朝読書、金曜にNIE活動を行う。</li> <li>・行事を精選し、学力フォローアップ教室や放課後の学習時間を確保する。</li> <li>・ぐんぐんタイムを午後の時間だけでなく、朝学習の水曜にも実施し、漢字・計算の習熟を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自ら学ぶ児童の育成」を研究主題に、総合的な学習の時間・生活科の学習を中心に、校内研究を推進する。</li> <li>・研究授業とその事前授業など、各学年2回の授業公開をする。</li> <li>・巡回指導や観察授業も全ての教員に参観を呼びかけ、授業改善につなげる場を多く設ける。</li> <li>・授業改善に向けて、OJTを活用し、研修を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「指導と評価の一体化」を目指した授業を行う。</li> <li>・各単元のねらいと評価規準を明確にしたきめ細かな学習指導計画を作成する。</li> <li>・1単位時間の中に児童が振り返りの時間を設定し、評価規準に即した評価を行う。</li> <li>・評価の反省と、次時の授業の軌道修正、工夫改善を行う。</li> <li>・「児童・保護者への学校生活アンケート」に、授業に関する質問項目を設け、授業改善プランの評価を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊島中央通り商店街や学校通り商店街の教材化、王子消防署、王子警察、地域の工場等、地域の施設や人材から学ぶ機会を多く設定する。</li> <li>・ICT機器を活用し、補習としての教材配信を定期的に行うとともに、必要に応じて取組状況や課題を家庭に通知し、連携を図る。</li> </ul>

[様式2]

令和3年度 第2学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

東京都北区立豊川小学校

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
「文章を書く」及び、「メモをもとに文章を書く」内容については目標値より7～8ポイント下がっている。しかし、それ以外の内容はすべて目標値より高い数値を出している。	「知識・技能」「思考・判断・表現」については目標値とほぼ同じ数値を出すことができている。しかし、「主体的に学習に取り組む態度」が7.4ポイント下回っている。調査で主体性を見取る問題が作文であり、無回答の児童が約30パーセントほどいる。	内容・観点ともに、「文章を書く」ということに対して、ポイントを下げている現状がある。文章を書くことに苦手意識をもっている、あるいは設問に対して何を書いたらよいか理解していない可能性がある。
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
目標値で見ると引き算が0.2ポイント、3つの数の計算が14.3ポイント、絵を使ったグラフが3.2ポイント目標より下がっている。それ以外の内容はすべて目標値より高い数値を出している。	「知識・技能」は3.3ポイント、「主体的に学習に取り組む態度」は0.1ポイント目標値よりも高い数値となっている。しかし、「思考・判断・表現」の結果は6ポイント目標値より下回っている。	「思考・判断・表現」の問題でできなかったところを見ると、文章問題や記述の問題が多くあった。内容というよりも、設問が長く題意を読み取れなかったり、自分の言葉で説明したりすることに課題がある。

[様式2]

令和3年度 第3学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
・教科の平均正答率の内、基礎力は目標値を0.3ポイント下回っており、区の平均正答率も4.7ポイント下回っている。活用力は目標値を5.6ポイント下回っており、区の平均正答率も8.3ポイント下回っている。 ・最も正答率が低かったのは「文章を書く」で、目標値を22.2ポイント下回っている。最終問題にたどり着けなかった可能性も考えら	・観点別正答率は、全て目標値を下回っており、特に「主体的に学習に取り組む態度」が目標値から17.6ポイントと大きく下回っている。	数値で見ると、現状ではどの内容、観点にも課題がある。書くことにおいては、無回答も見られ、取組意欲に課題があることが分かる。
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
・教科の平均正答率の内、基礎力は目標値を2.8ポイント下回っており、区の平均正答率も8.9ポイント下回っている。活用力は目標値を0.5ポイント下回っており、区の平均正答率も8.3ポイント下回っている。 ・最も正答率が低かったのは「三角形と四角形」で、目標値を11.7ポイント下回っている。	・観点別正答率は、「知識・技能」が2.3ポイント、「思考・判断・表現」が2.5ポイント目標値を下回っている。	図形が知識として結びついていないことと、繰り上がり繰り下がり等で計算ミスが多くあることが分かる。文章問題から式を立てることにしても苦手であることが分かった。

[様式2]

令和3年度 第4学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<p>・教科の平均正答率は、区の平均よりも上回っている。基礎は2.6ポイント上回っているが、活用は3.9ポイント下回っている。</p> <p>・最も正答率が高かったのは「漢字を読む」で、区の平均と比較しても4.4ポイント上回っている。また、最も正答率が低いのは「調べたことを文章にまとめる」であり、区の平均と比較して8.6ポイント下回っている。</p>	<p>・最も正答率が高かったのは「知識・技能」で、区の平均と比較して1.1ポイント上回っている。</p> <p>・「主体的に学習に取り組む態度」、「思考・判断・表現」は、区の平均と比較して1.1ポイント下回っている。</p>	<p>・最も正答率が低かったのは、「調べたものを文章にまとめる」、「文章を書く」であり、全国正答率を大幅に下回っている。また、「相手に伝わるように自分の考えを理由を挙げながら話す」ことも下回っており、自分の考えを相手にわかりやすく話したり、書いたりすることに課題がある。単純な問題の正答率が高い。一方文章にまとめることに苦手意識がある。</p>
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<p>・教科の平均正答率は、区の平均よりも上回っている。基礎は2.9ポイント上回っており、活用は1.6ポイント上回っている。</p> <p>・最も正答率が高かったのは、「たしざん、ひきざん」で、区の平均と比較しても4.5ポイント上回っている。他の内容も区の平均を下回っているものはない。</p>	<p>・最も正答率が高かったのは「主体的に取り組む態度」で、区の平均と比較して4.9ポイント上回っている。その他の「知識・技能」、「思考・判断・表現」も2ポイント以上上回っている。</p>	<p>・全体的に正答率が高く、算数に対して苦手意識が少ない。しかし、「小数の相対的な大きさ」が理解できていない児童が多い。小数のしくみは理解していても、指定された位をもとにして、いくつ分と見るのかができていない。</p>
理 科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<p>・教科の平均正答率は、区の平均よりも下回っている。基礎は、1ポイント下回っており、活用は、1.7ポイント下回っている。</p> <p>・最も正答率の高かったものは、「太陽と地面の様子」で4.3ポイント上回っている。最も正答率の低かったものは、「電気の通り道」で、8.3ポイント下回っている。</p>	<p>・最も正答率が高かったものは、「知識・技能」であり、区の平均と比較して、0.5ポイント上回っている。</p> <p>・最も正答率が低かったのは、「主体的に取り組む態度」で1.3ポイント下回っている。</p>	<p>・正答率が低かったものは、「電気の通り道」、「じしゃくの性質」、「音の性質」であり、電気や音など児童の目に見えないものが多い。また、理由を説明する問題の正答率が14.8%で「知識・技能」は身につけていても、それを応用し自分の考えを書くことが苦手である。</p>

[様式2]

令和3年度 第5学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<p>・基礎の正答率は目標値と比較して5.7ポイント上回っている。活用の正答率は目標値と比較して4.7ポイント上回っている。</p> <p>・最も正答率が高かったものは「漢字を読む」で、目標値と比較して10.1ポイント上回っている。最も正答率が低かったものは「かるとの読み札について話し合う」だが、目標値と比較して4.3ポイント上回っている。</p>	<p>・最も正答率が高かった「知識・技能」は、目標値より6.3ポイント上回っている。</p> <p>・最も正答率が低かった「主体的に学習に取り組む態度」は、目標値と比較して4.6ポイント上回っている。</p> <p>・3観点全て目標値より4ポイント以上上回っている。</p>	<p>・最も正答率が低いのは「文章を書く」で48.5%であった。</p> <p>・正答率が低い問題の観点は「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」である。文章を読み取り、自分で考え、文章で表現する力に課題があると考えられる。</p>
社 会		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<p>・基礎力の正答率は目標値と比較して0.7ポイント下回っている。活用力の正答率は目標値と比較して3.6ポイント下回っている。</p> <p>・最も正答率が高かったものは「自然災害からくらしを守る」で目標値と比較して1.8ポイント上回っている。最も正答率が低いものは「先人の働き」で、正答率は目標値と比較して3.3ポイント下回っている。</p>	<p>・最も正答率が高かった「知識・技能」は、目標値と比較して0.3ポイント下回っている。</p> <p>・最も正答率が低いのは「主体的に学習に取り組む態度」で、目標値と比較して4.2ポイント下回っている。</p> <p>・すべての観点項目の正答率が目標値を下回っている。</p>	<p>正答率29.4%の「先人の働き」、32.4%の「ゴミのしよりと利用」は、いずれも思考力・判断力・表現力を問われた問題で、資料を適切に判断したり、資料を読み取って考えたりすることに課題がある。</p>
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<p>・基礎の正答率は目標値と比較して3.4ポイント上回っている。活用の正答率は目標値と比較して3.6ポイント上回っている。</p> <p>・最も正答率が高かったのは「角の大きさ」で、目標値と比較して5.9ポイント上回っている。最も正答率が低いのは「折れ線グラフと表」だが、目標値と比較して3.7ポイント上回っている。</p>	<p>・最も正答率が高かった「知識・技能」は、目標値と比較して3.1ポイント上回っている。</p> <p>・最も正答率が低い「主体的に学習に取り組む態度」だが、目標値と比較して4.9ポイント上回っている。</p> <p>・すべての観点項目の正答率が目標値を上回っている。</p>	<p>正答率29.4%の「2つの折れ線の読み取り」、33.8%の「およその面積」は、いずれも思考力・判断力・表現力だけでなく、主体的に学習に取り組む態度を問う問題で、根拠を基に自分なりの考えをもって解決することに課題がある。</p>
理 科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<p>・基礎の正答率は目標値と比較して8.6ポイント下回っている。活用の正答率は目標値と比較して6.9ポイント下回っている。</p> <p>・最も正答率が高かったのは「自然の中の水」で目標値と比較して7.4ポイント上回っている。</p> <p>・正答率の最低値は「電気のはたらき」で目標値と比較して12.6ポイント下回っている。</p>	<p>・最も正答率が高かった「知識・技能」は、目標値と比較して8.4ポイント下回っている。</p> <p>・最も正答率が低い「主体的に学習に取り組む態度」は、目標値と比較して14.1ポイント下回っている。</p> <p>・すべての観点項目の正答率が目標値を下回っている。</p>	<p>正答率が低い「物の体積と力」「電気のはたらき」は、いずれも実験を通して学習した内容だが、既習の内容を基に結果を推測したり考察したりすることに課題が見られる。</p>

[様式2]

令和3年度 第6学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値61.3に対し正答率は基礎が65.3、活用が52.5であった。</li> <li>・内容について最も目標値を上回っているのは「聞き取り問題」で、10.2ポイント高い。</li> <li>・内容について最も目標値を下回っているのは「漢字の書く」で、23.4ポイント低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「知識・技能」の正答率は目標値59.3に対し53.7で5.6ポイント低い。</li> <li>・「思考・判断・表現」の正答率は目標値60.0に対し62.1で2.1ポイント高い。</li> <li>・「主体的に学習に取り組む態度」は目標値57.0に対し56.2で0.8ポイント低い。</li> <li>・「知識・技能」に課題があることが判明した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あらゆる教科を通じて、自己の表現方法の一つとして「書く」ことに取り組み、自分の思いや考えを文章化する技能が不足している。その中で、言語指導を適宜行い、正しい文章の書き方を技能として身に付けさせるとともに、既習の漢字については必ず使用することを指導し、わからない漢字については辞書やICT機器を活用し、進んで調べることを習慣化させていく必要がある。</li> </ul>
社 会		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値62.9に対し正答率は基礎が68.9、活用が52.0。</li> <li>・内容について最も目標値を上回っているのは「世界の中の国土」で+10.2。</li> <li>・内容について最も目標値を下回っているのは「日本の食料生産」で-14.8。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「知識・技能」の正答率は目標値68.0に対し58.8で-9.2。</li> <li>・「思考・判断・表現」の正答率は目標値50.0に対し44.9で-5.1。</li> <li>・「主体的に学習に取り組む態度」は目標値52.0に対し45.7で-6.3。</li> <li>・全体的に学習の定着度が低いことが判明した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的な事象について、身近なこと、自分に関わることであるという意識が希薄である。特に食に関しては、生きていくために必要な重要課題であり、持続的に生涯にわたり向き合っていく問題であるという意識付けが不十分であった。日常生活やNIE学習、その他あらゆる教科と関連付けて、社会的な事象を自分ごととして捉え、課題に対してのアプローチを考えさせていく必要がある。</li> </ul>
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値67.0に対し正答率は基礎が71.5、活用が53.8。</li> <li>・内容について最も目標値を上回っているのは「割合」で+10.1。</li> <li>・内容について最も目標値を下回っているのは「分数の計算」で-15.5。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「知識・技能」の正答率は目標値71.7に対し75.1で+3.4。</li> <li>・「思考・判断・表現」の正答率は目標値58.2に対し54.5で-3.7。</li> <li>・「主体的に学習に取り組む態度」は52.5に対し56.3で+3.8。</li> <li>・他の2観点と比較して、「思考・判断・表現」が低いことが判明した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の導入時には既習事項を喚起させるだけでなく、朝学習や家庭学習などでも日頃から分数を含めた計算問題にとりくませ、基礎的な学力の定着を図っていく必要がある。また思考・判断・表現については、今回は書くというアウトプット方法が苦手な児童はできていないと判断されているので、点数の低い児童に対し、授業の中で様々なアウトプット方法を試し、本当にできていなかったのか判断していく必要がある。</li> </ul>
理 科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値64.3に対し正答率は基礎が70.0、活用が51.1。</li> <li>・内容について最も目標値を上回っているのは「魚のたんじょう」で+11.4。</li> <li>・内容について最も目標値を下回っているのは「植物の花のつくりと実」で-14.0。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「知識・技能」の正答率は目標値68.4に対し62.9で-5.5。</li> <li>・「思考・判断・表現」の正答率は目標値59.6に対し55.6で-4.0。</li> <li>・「主体的に学習に取り組む態度」は目標値49.0に対し45.2で-3.8。</li> <li>・全体的に学習の定着度が低いことが判明した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メダカの飼育体験を行った「魚のたんじょう」は高得点だったのに対し、他学年が栽培したヘチマで実験を行った「植物の花のつくりと実」は点数が低かった。子供たちの体験に基づく授業の必要性が判明したので年間指導計画、単元指導計画を見直し、体験を伴う授業改善を行う必要がある。</li> </ul>

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（国語）

東京都北区立豊川小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	促音、拗音の書き取りに課題が見られる。助詞の「は」「を」「へ」を中心に、つなぐ言葉かどうかの判断を児童自身で付けられるようにする必要があり、その視点で推敲する指導が十分に行われていない。	文づくりに特化した指導と、他の単元の中での活用を行う。 推敲の視点を示したり、繰り返し取り組ませ、習慣を身に付けさせたりしていく。文例の推敲や、共同推敲にも取り組んでいく。	推敲しても気付かなかった誤りについては、教師が朱を入れて気付かせたり、個別指導で音読させて誤りに気付かせたりする。 2学期以降、簡単な日記指導や10分間ミニ作文に取り組み、促音、拗音、助詞の書き取りを定着させていく。
2年	文章を書くことに対する苦手意識をもつ児童が多い。「何を書いたらいいのか」見通しがもてる指導方法の工夫が十分ではない。	授業の最後に自分の言葉で振り返りを書き、自分で書き表すことを繰り返し行う。また、文章を書くときには、どうやって書くかの例を示したり、ヒントカードを用意して取り組む難易度を自分で選択できるようにする。友達と見合っ文の推敲をする活動を取り入れる。	・どのように書いて表現すればよいか具体的なイメージがもてるよう、サンプル文を示す。 ・児童の実態に応じたヒントカードを複数用意し、自分が書きやすいカードを選択できるようにする。
3年	「何を書くのか」、「何を伝えるのか」、「何を読み取るのか」把握できていないまま活動に入っている児童が見られる。そのため、学習計画の立て方や課題提示等の指導方法に課題があると考えられる。	教科書を参考にして、学級の実態に合った学習計画を児童と共に立てていく。授業をできるだけシンプルに構築する。また、段階に応じたワークシートを活用し、板書内容や児童の記述内容を簡素化する。	・NIEの充実。毎週の活動と共に、校長先生の記事の切り取りから、自分の意見を考えたり、読書の時間に新聞を活用したりする。 ・書く意欲を損なわないように、児童が書いた言葉や文章をその児童の段階を踏まえ肯定的に受け止めていく。
4年	自分の考えを相手に伝えることが苦手な児童が多く、それを書くことになるとさらに苦手意識が高まる児童が見られる。学習課題提示やまとめの指導方法に課題があると考えられる。	授業の最後に振り返りを書くことで、自分の考えを短い文章で書くことを繰り返し行っていく。また、文章に書くだけでなく、自分の考えをわかりやすく友達に話して伝える活動も積極的に取り入れていくようにする。	・NIEタイムでは、要約や自分の考えを書く活動を行い、書くことに慣れるようにする。また、日記の宿題も毎週出し、自分が伝えたいことを書く習慣も身につけられるようにする。 ・「書く」学習の際は、どう書いていいかわからない児童に例を出し、安心して書くことができるようにする。
5年	・文章を書くことに苦手意識をもつ児童が多く、作文を書く際、発想、記述、構成の各段階で困っている様子が見られる。各段階をワークシートなどを使ってスモールステップで進めて行う必要がある。 ・既習漢字を使わずに、ひらがなを使う児童が多いので、日常的に習った漢字を正しく使用するよう指導しなくてはならない。	・日々の学習での振り返りなどで、短い文章を書く習慣を身に付けるよう指導する。ペアやグループの話し合う活動などで、自分の考えを深める時間を多く設定する。 ・漢字小テストを定期的に行う。漢字のまとめテストでは再テストを繰り返すことで定着を図る。また、国語辞典や漢字辞典を常備して確認することを意図的に指示したりして、学習を進める。	・NIEを推進していく。毎週金曜に実施しているNIEタイムだけでなく、日頃から学校で新聞記事が読める環境を整え、担任が記事の紹介などを行っていく。 ・図書支援員と連携しながら各単元の関連図書にも触れさせる。 ・フォローアップ教室での個別支援の結果をフィードバックし、必要な手立てを学年で相談し、支援計画を実施していく。
6年	昨年度から書くことに対して苦手意識が強い児童が多いのは判明していたので、「型」を示しながら文章を書く学習に取り組ませてきた。しかし正答率の低い問題は「対義語について理解している。」が7.1、「文脈に沿った適切な漢字を使う。」が14.3、「漢字を書く」が16.7であった。更に基本的な言語事項について、日々の授業の中での指導が必要である。	・文や段落相互の関係をとらえる場面で、言語事項の意味や用法を具体的な文章の中で重点的に扱うことにより、文章や段落の確かな読み取りが行われ、文や段落相互の関係やつながりを考えながら読む活動に取り組ませる。 ・既習の漢字を必ず使うことを指導し、わからない語句は辞書を活用し、定着を図る。	・NIEを推進していく。NIEタイムだけでなく、日頃から学校で新聞記事が読める環境を整え、担任が記事の紹介などを行っていく。 ・読書活動の充実を図るため、「豊川小おすすめの50冊」を読むだけでなく、図書支援員と連携しながら各単元の関連図書にも触れさせる。 ・フォローアップ教室での個別支援の結果をフィードバックし、必要な手立てを学年で相談し、支援計画を実施していく。

[様式3]

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（社 会）

東京都北区立豊川小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	児童は意欲的に調べ学習に取り組んでいる。しかし、調べる内容や自分の実態に合っていない調べ方をしようとする児童がいる。そのため、調べる方法の選び方を適切に指導していく必要がある。	調べ方を学級全体で話し合っ、どれが適切だと思いか意見交換を行う。(これまでは経験させたいがためにたくさんの方法をひたすら試していた。)調べ学習の振り返りで、調べ方が合っていたかどうか、児童自身に考えさせる。	・調べ学習で扱ったソフトは、休み時間や隙間の時間等でルールを守って活用させていく。(例・グーグルアース、ポプラディアネット等)
4年	資料の読み取りが苦手で、学習内容が自分の生活と結びついていない場合が多い。教科書の図やグラフを使って資料の読み取りを丁寧に指導する必要がある。また、学習内容を生活に結びつけるような指導計画を立てる必要がある。	・身近な事象を例に挙げ、児童が興味関心をもつことができる授業を展開する。 ・資料の読み取りが苦手なので、教科書の資料を活用し、そこからわかること、考えられることをまとめる時間を設定する。	・実際に見学できるところには、積極的に行き、体験や見学をして自分の生活と結びつけながら理解できるようにする。また、見学ができない場合は、有効な資料提示と共にインターネットや動画を活用していく。 ・ラインズeライブラリーを活用し、復習問題に取り組みせる。
5年	学習意欲が低く、適切な資料を選択し、正しく読み取り、自分の考えを表現する力が弱い。複数の資料から「何を」「どこまで」読み取らせるのか明確にして指導していく必要がある。	・単元を貫く「問い」や本時の「問い」を工夫し、児童の身近な事象と結び付けるなど、興味関心を高める授業を行う。 ・児童自ら学習問題が設定できるような資料を用意する。また、資料の見方、考えのポイントを押さえるとともに、つまづきが見られた時のための補助発問をあらかじめ用意する。	・ラインズeライブラリーを活用し、復習問題に取り組みせる。 ・児童に資料などを使って、単元ごとにロイロノートでまとめ、互いのまとめのよい点を見つけながら、読み取る力を伸ばしていく。 ・単元ごとの小テストを行い、理解が不十分な児童に個別指導を行う。
6年	学習してきた内容が教科書や資料に載っていたというだけで、児童自らの社会生活に関連している意識付けをさせる指導が不十分であった。正答率の低い問題は「トレーサビリティの理解」が4.8、「日本周辺の海流文脈」、「製鉄所の位置と分布」、「資料に着目し、コンビニのポイントカードの利点」が21.4であった。これらすべてが自分たちに関わることでないと理解させていかなければならない。	・単元を貫く「問い」や本時の「問い」を工夫し、「問い」の組み立てを構造化した授業を実践する。 ・現行学年の学習の中でも地理的用語と位置についておさえていく。 ・総合的な学習の時間や道徳、家庭科、食育などの他教科との横断的な学習の内容も取り上げていく。	・ラインズeライブラリ、スタディサプリを活用し、前学年の復習問題に取り組みせる。 ・テストなどに活用できる見直しマニュアルを作成し、児童に見直す習慣を定着させる。 ・NIEで興味関心をもった社会的な事象について、自主学習などで探求を行わせていく。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（算 数）

東京都北区立豊川小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き算の立式と、答え方に課題が見られる。小さい数から大きい数を引こうとしたり、「どちらが、いくつ」という問いに対して一方しか答えなかったりする実態がある。</li> <li>任意単位による長さの比較に課題がある。同じ物を用いていくつぶんかを比べる指導方法の工夫が不十分だった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問われていることや分かっていることに、下線を引く習慣を付ける。数の大小比較をしたり、○を書いて表したり、ブロックを活用したりして、量的に可視化する。これらの方法から、児童が自分に合ったものを振り返って見付け、活用できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>立式の根拠を伝え合う活動をする。友達と答え方を比べ、違いに気付かせて何を問われているかに立ち返らせる。</li> <li>数値化して表せる任意単位のよさを実感できるよう、複数のものをまとめて比べる活動を取り入れる。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章から立式したり、情報量の多い問題を解いたりすることに対して課題がある。</li> <li>足し算や筆算の計算も習熟が必要である。</li> <li>文章題に対して、何に着目し立式するかという視点を示した指導が十分に行われていない。</li> <li>足し算、引き算の筆算につまずいている児童に対し、どこに着目すれば正しく計算できるかを示した指導が十分ではない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>聞かれていること、分かっていることを明確にさせる。</li> <li>言葉や図で数量や式を捉える指導を行い、様々な方法で理解できるようにする。</li> <li>ベーシックドリルや計算ドリルを繰り返し活用することで、基礎知識を確実なものとしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ラインズeライブラリーに取り組みせ、自分の学習進度に合ったドリル学習を進ませる。</li> <li>友達同士で解き方を話し合わせたり、なぜそう思ったかを伝え合ったりする活動を設け、理解力と説明力を養う。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>繰り返しが繰り返り下がりのある計算問題にミスが目立っている。正しい計算方法を行うための指導が不十分であった。三角形・四角形等の図形の知識が入っていない。図形の名称や形の特徴など基本的な知識を習得するための指導が不十分であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>練習問題に取り組む時間を教師自身が大切に捉え、時間をしっかり確保する。計算ドリルを宿題としてだけではなく、授業でも活用していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>つまずきの見られる児童には、ラインズeライブラリーでの補充や、自主学習での計算ドリルへの取組を提案する。（児童と相談の上決定する）</li> </ul>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>四則計算を求める問題は、得意な児童が多い。一方で計算方法や理由を説明することが苦手である。答えを導く過程を大切にされた指導が不十分であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題解決型の授業を取り入れ、答えだけでなく、なぜその答えが導き出せたのかを説明したり、図や式を使って表現できるようにする。</li> <li>「知識・技能」の能力が下がらないよう、ぐんぐんタイム等を利用し、基礎・基本の定着を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>つまずきの見られる児童には、個別に指導すると共に、四則計算の正しい行い方を身に付けさせる。</li> <li>習熟の程度が高い児童には、自分の言葉で友達やグループ全体に説明ができるよう指導する。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>面積や概数の単元の理解が不十分である。面積の求め方や概数のきまりなどの基礎的な知識を習得するための指導が不十分であった。</li> <li>グラフなどを読み取ったり、説明したりする問題が身に付いていない。読み取り方や数値から分かることを説明する指導が不十分であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>面積の求め方、概数の基本的な知識をぐんぐんタイムを通して身に付けさせる。</li> <li>四則計算は、日常の授業でも繰り返し練習し、理解の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>つまずきの見られる児童には、個別に指導し、基本的な知識や公式を再確認して定着させる。フォローアップ教室担当教員とも連携し、課題となる単元を重点的に指導できるようにする。</li> <li>習熟の程度が高い児童には、答えを導き出すだけでなく、その過程や答えとなる根拠を明らかにできるよう指導する。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>「面積を求める問題」、「分速を時速や秒速に直す問題」、「与えられた情報から正しくない理由を述べる問題」の理解が不十分である。単位を換算して計算したり、情報を読み取る指導が不十分であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ぐんぐんタイムで公式を基に計算をする問題や速度を様々な単位で表す問題を重点的に指導する。</li> <li>学習問題に対し、毎時間、自分の言葉で考えをまとめる力を付ける。また、ふりかえりでも「できたこと・新しく分かったこと」を中心に自分の言葉でまとめられるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>つまずきの見られる児童には、個別に指導し、公式の覚えるよさを明らかにすると共に四則計算を正確に素早く行えるようにする。フォローアップ教室とも連携を図り、個々の課題に応じて指導を行えるよう計画して実施する。</li> <li>習熟の程度の高い児童には、自分の考えをまとめる際、国語科と関連させながら、理由や説明などを自分の言葉で書けるよう指導を行う。</li> </ul>

[様式3]

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（理 科）

東京都北区立豊川小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	児童は高い意欲をもって学習に取り組むことができている。しかし、体験的活動が知識として理解するところまで至っていない児童がいる。そのため、体験と知識を結びつけるための指導の充実が必要である。	・体験的活動後に小グループでの話し合い活動を取り入れていく。考えさせるところと教えるところを明確に意識して授業を構築していく。言葉として押さえるべきところは、ノートやワークシート等も活用し、しっかりと定着させる。	・調べ学習で扱ったソフトは、休み時間や隙間の時間等でルールを守って活用させていく。(例・ものすごい図鑑、NHKの実験動画等)
4年	実験に対する意欲は高いが、そこから考察を考えると苦手な児童が多い。実験から考えられることは何なのかの考察を中心とした指導をしていく必要がある。	・実験だけで終わることのないよう、そこから考えたこと・思ったことをまとめ、発表する時間を必ず作るようにする。また目に見えない事象を扱う場合は、動画資料や教科書の写真を利用し、児童がわかりやすく学習をすすめることができるようにする。	・理科実験支援事業を有効利用し、児童が理科を楽しみながら理解できるようにする。 ・ラインズeライブラリーを用いて知識の定着を図る。
5年	児童の理科に対する学習意欲が低く、どの単位においても基本的な知識理解が不十分である。学習意欲をもたせるための指導が必要であった。児童が興味や関心をもって取り組める導入を工夫し、観察・実験を意欲的に行えるよう指導する必要がある。	・児童が興味や関心をもって取り組める導入を工夫する。 ・指導計画の作成の際に、観察・実験や自然体験などを取り入れた体験的な活動の充実を図る。単に用語等を覚えるだけではなく、学習したことを実際の生活場面に適用して考える場を設定する。 ・観察・実験結果を一人一人が自分の言葉で振り返る時間を設定する。	・基礎知識については何度も確認を行ったり、ワークテスト後に間違った部分を繰り返し学びなおすことで知識の定着化を図る。 ・ラインズeライブラリーを用いて知識の定着を図る。
6年	正答率の低い問題は「水溶液が均一になることへの理解」が9.5、「メトロノームのテンポを速くする方法の説明」が11.9であった。実験で予想⇒結果⇒結論といったプロセスは学習しているが、「予想からどのような結果が得られるのか。」「予想された結果と実際の結果が違った場合、何が原因なのか。」「実験方法の妥当性と結果の再現性を検証し、条件や対象を変えた場合の結果についても考察できるのか。」など、実験結果から分かること、考えられることにも見方・考え方を働かせた学習に取り組ませていく必要がある。	・自己解決を図る場面とグループや学級で話し合う場面を意識的に作り、何故そのように考えたのかの根拠を伝え合うことで理解を深めたり、考え方の違いに気付くようにし、お互いに説明を行う場面を増やしていく。 ・映像資料やデジタル教科書を活用し、視覚的に理解しやすいものにしていく。 ・「問題をつかむ」「問題」「予想」「計画」「観察・実験」「結果」「考察」「活用」の8つのステップで問題解決学習を進める。	・ラインズeライブラリー、スタディサプリを活用し、前学年の復習問題に取り組ませる。 ・基礎知識については何度も確認を行ったり、ワークテスト後に間違った部分を繰り返し学びなおすことで知識の定着化を図る。 ・国語科と関連させながら、理由や説明など文章を書く指導を行う。